

無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集(△05)

目 的 無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

成 果 1. 韓国との交流事業では、韓国国立無形遺産院との研究交流の一環として、無形文化遺産部の石村智を派遣し、2018(平成30)年4月23日～5月7日の間、済州島で人類学者・泉靖一(元京城帝国大学助教授・文化人類学者)の調査の来歴について研究した。また10月15日～11月2日の間、韓国文化財庁国立無形遺産院学芸研究士の尹秀京氏を受け入れ、民俗技術に関する共同調査を実施した。主に製塩技術(石川県珠洲市)、製茶技術(静岡県静岡市・京都府宇治市)を中心に現地調査を実施した。その成果は11月2日の成果発表会(於:本研究所)において発表された。



韓国国立無形遺産院との交流事業における民俗技術の調査の様子(宇治市)

2. 無形文化遺産分野の国際的情報収集では、ユネスコ無形文化遺産条約第13回政府間委員会(開催国モーリシャス:2018(平成30)年11月26日～12月1日)に2名のスタッフ(石村・二神)を派遣し、ユネスコ無形文化遺産条約に関する情報収集を行った。特に日本国政府代表団の発言に際し、「無形文化遺産と防災」に関連した助言を行い、本研究所の研究成果の発信につながった。なお本調査の成果は『無形文化遺産研究報告』第13号において「無形文化遺産の保護に関する第12回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」として報告した。
3. アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)が実施する事業「アジア太平洋地域における無形文化遺産の防災」に協力し、2018(平成30)年12月7日～9日に仙台市で開催された「Asia-Pacific Regional Workshop on Intangible Cultural Heritage and Natural Disasters」でIRCIと共に無形文化遺産部が共同議長をつとめた。

- 論 文**・Tomo Ishimura, Yoko Nojima, Ilaitia Senikuraciri Loloma, and Elizabeth F. D. Edwards: The ICH situation during the aftermath of tropical cyclone Winston: Results of the preliminary field survey in Ra Province, Fiji. Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster Risk Management in the Asia-Pacific Region, pp. 115-131. International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (IRCI) 19.3
- ・Yoko Nojima, Tomo Ishimura, Cecilia V. Picache, and Norma A. Respicio: Intangible Cultural Heritage and natural hazards in the Philippine Cordilleras: Preliminary report of the field research in Abra and Ifgao. Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster Risk Management in the Asia-Pacific Region, pp. 132-137. International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (IRCI) 19.3
- ・二神葉子:「無形文化遺産の保護に関する第13回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」『無形文化遺産研究報告』13 pp.1-21 19.3
- 発 表**・Tomo Ishimura: Safeguarding Cultural Heritage in the Pacific: Current Issues and Perspectives. World Social Science Forum 2018, Fukuoka. 18.10.26

研究組織 ○飯島満、久保田裕道、前原恵美、石村智、今石みぎわ、菊池理予(以上、無形文化遺産部)、二神葉子(文化財情報資料部)、宮田繁幸、松山直子、神野知恵(以上、客員研究員)

アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (コ02)

- 目的** 東南アジア、西アジアやその周辺地域における文化遺産保存修復事業等への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて、文化遺産の保存修復及び管理活用に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。
- 成果**
- 研究会「大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係」の開催（2018（平成30）年12月16日）。タイとミャンマーより建築遺産専門家各1名を招聘（2018（平成30）年12月14日～19日）
 - カンボジア・アンコール・タネイ寺院保存整備計画策定支援等
 - 考古発掘（東参道及びテラス遺構の継続調査、外周壁東門周囲）、外周壁東門建造物修復に向けた支保工置換及び3Dスキャニングによる現状記録、寺域東方の地形測量等の作業を実施（2018（平成30）年6月3日～9日、8月18日～10月8日、2019（平成31）年1月19日～26日、3月7日～18日）
 - アンコール遺跡保存国際調整委員会技術会合への参加及び報告（2018（平成30）年6月5日～6日）
 - 東南アジア考古学会例会（於奈良文化財研究所）における報告（2018（平成30）年10月15日）
 - イラン文化遺産手工芸観光庁及び文化遺産観光研究所との協力事業
同国国立博物館における「博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修」及び関連調査の実施（2018（平成30）年10月18日～26日）
 - アルメニア・エチミアジン大聖堂博物館及び同国歴史文化遺産科学研究センターにおける「染織文化遺産に関する保存修復研修」の実施、ジョージアにおける協力可能性調査（2018（平成30）年6月19日～7月12日）
 - ブータンにおける歴史的民家保存に関する調査実施及び関係機関打合せ（2019（平成31）年1月13日～19日）
 - 韓国・平昌で開催された第12回アジアの建築交流国際シンポジウム（ISAIA2018）に参加し、ブータンの伝統的民家建築について発表（2018（平成30）年10月23日～26日）
- 発表**
- Masahiko TOMODA et al.: “Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei Temple and Progress of the Archaeological Investigation” The 30th Technical Session of ICC-Angkor, 18.6.5
 - Alejandro Martinez, Masashi Abe: “Conservation and Archaeological Investigation at Ta Nei Temple, Angkor”, 第262回東南アジア考古学会例会 18.10.15
 - Masahiko TOMODA et al.: “Architectural features of traditional houses in Bhutan” ISAIA 2018 The 12th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, 18.10.24
- 刊行物**
- “Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor -Progress Report of 2017 and 2018-” APSARA/ TNRICP, 19.3
 - 『東南アジア古代都市・建築研究会：東南アジアの古代都市を考える』東京文化財研究所 19.3
 - 『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成30年度成果報告書』東京文化財研究所 19.3
- 研究組織**
- 友田正彦、安倍雅史、山田大樹、マルティネス・アレハンドロ、間舎裕生、浅田なつみ、荒木晶（以上、文化遺産国際協力センター）、佐野千絵、小峰幸夫（以上、保存科学研究センター）、石井美恵、古田嶋智子（以上、客員研究員）、呂俊民（前客員研究員）、大石岳史（東京大学）、内田賢二（測量専門家）

保存修復技術の国際的応用に関する研究 (コ03)

目 的 文化遺産保護に関して諸外国が有する問題は、それぞれの地域、環境に応じて多種多様であり、それらへの対応には他国で実績のある既存の手法をそのまま適用することが必ずしもできない。そこで、本プロジェクトでは文化遺産の現地における持続可能な保存・修復・活用のための維持管理を目標に、各国における問題を分析し、現地の実情に即した修復技法、材料を研究するとともに、当研究所を中心に諸外国の専門家ネットワークを構築し、意見交換、技術移転をすることで、現地担当者の育成を図る。

- 成 果**
1. サザンスイス応用科学大学との共同研究に関する打ち合わせ (2018(平成30)年4月19日～29日)
 2. ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究
 - ア) 煉瓦造寺院 (Me-taw-ya 寺院) の外壁調査と保存修復方法の研究 (2018(平成30)年7月11日～8月5日) (2019(平成31)年1月14日～2月3日)
 - イ) 考古国立博物館局バガン支局職員を対象にしたワークショップの実施
 - ◆ワークショップテーマ
 - A: 煉瓦造寺院外壁の保存修復 (2018(平成30)年7月16日～31日) (2019(平成31)年1月18日～30日)
 - B: 地震被災箇所の応急処置 (2019(平成31)年1月18日～25日)
 - C: 壁画保存修復 (2018(平成30)年7月16日～31日) (2019(平成31)年1月18日～30日)
 3. バガン王朝期における壁画技法と図像学に関する調査 (2018(平成30)年7月14日～23日) (2019(平成31)年1月16日～23日)



地震被災箇所の保存修復



壁画技法と図像学に関する調査風景

論 文・ Maria Letizia Amadori, Paola Fermo, Valentina Raspugli, Valeria Comite, Francesco Maria Mini, Yoshifumi Maekawa, Mauro La Russa: "Integrated scientific investigations on the constitutive materials from Me-taw-ya Temple, Pagán Valley, Burma (Myanmar)" *Journal of the International Measurement Confederation* Volume 131, 19.1

発 表・ Yoshifumi Maekawa: "Il progetto in corso di Tokyo National Research Institute for Cultural Properties" *University of Applied Sciences and Arts of Italian Switzerland* 18.4.26

・ 嶋原由美、前川佳文「ミャンマー・バガン考古遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究—美術史的・技法的視点による壁画調査—」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.17

・ 嶋原由美、前川佳文「ミャンマー・バガン考古遺跡群における壁画の保存管理に関する調査」日本文化財科学会第35回大会 18.7.7-8

刊行物・『ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院外壁の保存修復および壁画調査 平成30年度成果報告書』東京文化財研究所 19.3

研究組織 ○加藤雅人、前川佳文、増渕麻里耶(以上、文化遺産国際協力センター)、嶋原由美(保存科学研究センター)

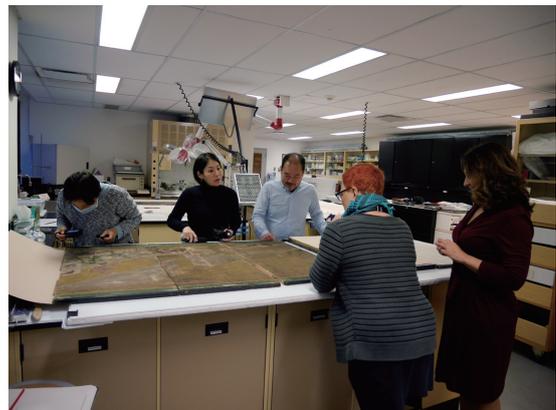
在外日本古美術品保存修復協力事業 (コ04)

目的 日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、日本の文化財の保存修復専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、本事業では海外で所蔵されている日本の文化財のうち絵画作品及び漆工芸品の保存修復に関する助言等の協力を行う。また本格的な修復が必要な作品に関しては日本で修復して返還する。さらに、作品の性状に応じて保存修復方法に関する研究を行い、結果を公開、共有する。

- 成果**
1. 作品修復を行った。
 - ア) ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア (オーストラリア) 所蔵 佐々木泉玄筆「般若図」1幅
以上、修復完了
 - イ) ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア (オーストラリア) 所蔵 「親鸞聖人絵伝」4幅
 - ウ) インディアナポリス美術館 (アメリカ) 所蔵 鈴木其一筆「八橋図・檜図」6曲1双
 - エ) インディアナポリス美術館 (アメリカ) 所蔵 曾我蕭白筆「太公望図・林和靖図」2幅
 - オ) インディアナポリス美術館 (アメリカ) 所蔵 雲谷等顔筆「煙寺晚鐘図・平沙落雁図」2幅
以上4件、修復中
 2. 調査を行った。
モントリオール美術館 (カナダ)、日本絵画の調査 (2018 (平成30) 年11月26日～28日)
 3. 研究を行った。
上記作品修復のための修復技法及び材料に関する基礎研究



絵画作品修復



調査風景 (カナダ)

- 発表**・小田桃子ほか：「クラクフ国立博物館所蔵 狩野董川中信筆『月下秋景図』(絹本着色 掛軸装) 修復事例報告」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.17
- ・元喜載ほか：「日本絵画の裏彩色に対する剥落止め用いる膠水溶液濃度の検討」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.17
- 刊行物**・『在外日本古美術品保存修復協力事業 遊女と禿図 No.2015-1 修復報告』東京文化財研究所 19.3
- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 瀑布溪流図 No.2015-3 修復報告』東京文化財研究所 19.3 ほか2件

研究組織 ○加藤雅人、中山俊介、元喜載、小田桃子(以上、文化遺産国際協力センター)、江村知子、安永拓世、米沢玲(以上、文化財情報資料部)、三本松俊徳、小田切真梨(以上、研究支援推進部)、藤井佑果(保存科学センター)、杉山恵助(客員研究員)

国際研修(コ05)

目 的 近年日本の材料や道具、保存修復の理念が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に直接日本の技術や知識を伝える場が求められている。本事業で国内外において研修を、政府間機関ICCROMや各国機関と共催、あるいは各国の関連機関の協力を得て開催することで、保存修復関係者への技術移転、情報共有を行う。

- 成 果**
1. 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復 (Curso Internacional de Conservación de Papel en América Latina)」を開催した。(2018(平成30)年5月28日～6月13日)
主催：東京文化財研究所・ICCROM・INAH、会場：CNCPC-INAH(メキシコ・メキシコシティ)、
参加者：11名(アルゼンチン、ブラジル、コロンビア、キューバ、スペイン、パラグアイ、ペルー、メキシコ)、その他オブザーバー4名
 2. ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復 (Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk)」を開催した。
主催：東京文化財研究所、会場：ベルリン国立博物館アジア美術館(ドイツ・ベルリン)
ア) 基礎編「日本の紙本・絹本文化財」(2018(平成30)年7月4日～6日)
参加者：12名(アメリカ、イギリス、イタリア、スペイン、ドイツ、ハンガリー、ベルギー、ポーランド、リトアニア)、その他オブザーバー1名
イ) 応用編「掛軸の修復」(2018(平成30)年7月9日～13日)
参加者：9名(アメリカ、イタリア、中国、ドイツ、フィンランド、ポーランド)、その他オブザーバー1名
 3. ワークショップ「染織品の保存と修復 (Workshops on Conservation of Japanese Textile)」を開催した。
主催：東京文化財研究所・国立台湾師範大学、会場：国立台湾師範大学(台湾・台北)
ア) 基礎編「日本の染織品文化財」(2018(平成30)年8月8日～10日)
参加者：9名(アメリカ、スウェーデン、台湾、日本、フィリピン、ベルギー)
イ) 応用編「日本の染織品の保存修復」(2018(平成30)年8月13日～17日)
参加者：6名(アメリカ、スウェーデン、台湾、日本、フィリピン)
 4. 国際研修「紙の保存と修復 (International Course on Conservation of Japanese Paper)」を開催した。(2018(平成30)年8月27日～9月14日)
主催：東京文化財研究所・ICCROM、会場：東京文化財研究所他
参加者：10名(アルゼンチン、イギリス、オーストラリア、カナダ、ザンビア、デンマーク、フィジー、フランス、ブータン、ポーランド)
 5. ワークショップ「漆工品の保存と修復 (Workshop on Conservation and Restoration of Urushi Objects)」を開催した。(2018(平成30)年11月26日～30日)
主催：東京文化財研究所、会場：ケルン市博物館東洋美術館(ドイツ・ケルン)
参加者：6名(アメリカ、イギリス、カナダ、ドイツ、ノルウェー、フランス)

- 刊行物**・『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2018』東京文化財研究所 18.12
・『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2018』東京文化財研究所 19.1
・『ワークショップ「染織品の保存と修復」2018』東京文化財研究所 19.2
・『ワークショップ「漆工品の保存と修復」2018』東京文化財研究所 19.3

研究組織 ○加藤雅人、中山俊介、後藤里架、五木田まきは、元喜載、小田桃子(以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子(保存科学研究センター)、菊池理予(無形文化遺産部)、三本松俊徳、小田切真梨、石川絵梨子(以上、研究支援推進部)、石井美恵、大河原典子、杉山恵助(以上、客員研究員)